



TITLE:

観測部流星課報告

AUTHOR(S):

小槇, 孝二郎

CITATION:

小槇, 孝二郎. 観測部流星課報告. 天界 1928, 9(92): 30-31

ISSUE DATE:

1928-10-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/161337>

RIGHT:

観測部流星課報告

課長 小嶺孝二郎 (和歌山縣有田郡金屋)

1. 七月の流星観測 七月の流星観測者次の如し

小嶺孝二郎(Ko)和歌山縣有田縣金屋

平林 權久(Hi) ♪ 縣 ♪ 郡 ♪

登尾 覺一(No) ♪ 縣 ♪ 郡 ♪

観測概略

月 日	7月 7日(P.M)	9日(P.M)	10日(P.M)	12日(P.M)	14日(P.M)	27日(A.M)	28日(A.M)
観 測 者	Ko	Ko	Ko	Ko	Ko	Ko.No.共同	Ko.Hi.No.共同
観 測 数	8	11	14	3	4	24	43
観測時間	40 ^m	95	80	35	60	95	105
一時間 平均数	12.0	6.6	10.5	5.1	4.0	15.2	24.6

以上の観測中初の5日のものの中には、顯著のものはなかつた。9日、10日の二夜には小狐座及矢座より放射するもの數個あり、又琴座γ附近を輻射點とするもの5個を得た。ペルセ群に屬すべしと思はるゝものは9日夜に1個を認めただけである。28日曉の観測には水瓶座δ流星群に屬するもの4個を得た。光度は2等乃至4等。白色、灰を撒布しつゝ飛行する如き特徴あり。輻射點の位置は $\alpha=341^\circ$, $\delta=-13^\circ$ である。

又27日曉登尾氏観測の流星中負4等の大流星あり。出現時刻 4^h5^m, 繼續時間0.8秒, 速度R, 色 RW 痕の繼續時間約30秒。確度最良。

發火點 $\alpha=42^\circ$, $\delta=+30^\circ$ 消滅點 $\alpha=51^\circ$, $\delta=+54^\circ$ 牡羊座流星群のものか。28日曉に牡羊座41星附近より發射するもの4個を認めてゐる。

2. 八月の流星観測

八月のペルセ流星群の観測結果は次の通りである。()印内の數はペルセ流星群に屬すべしと思はるゝ流星數である。

これ以外に10日曉改發氏の観測4個(内一個のみペルセ群に屬す), 12日早曉の坂元氏観測の大流星一個を加ふれば全観測數は實に650個に及ぶ事になる。

觀測者	觀測地	11日(A.M)	12日(A.M)	13日(A.M)	14日(A.M)	15日(A.M)
佐藤米茂	島根縣濱田	11(9)	101(83)	—	—	—
改發香塙	神戸西須磨	—	18(13)	19(13)	—	—
小槇孝二郎	岡山縣津山	16(13)	40(32)	16(8)	—	9(4)
稻葉通義	大分縣白杵	—	15(15)	20(16)	—	—
龜井壽彦	大分縣白杵	—	4(2)	8(8)	6(6)	—
吉田工一	山口縣長府	—	36(25)	38(24)	45(21)	—
{富士一男 松原馨	兵庫縣神岡	—	—	111(51)	25(7)	—
桑田久一	大阪市	—	8(6)	—	—	—
正木健三	愛媛縣松山	—	—	7(3)	—	—
山根雄治	山口縣滿田下市	—	—	—	10(?)	—
八代田貫一郎	香川縣小豆島	—	—	—	23(?)	—
田中鐵馬	鹿兒島縣指宿	—	60(36)	—	—	—
合計		27(22)	282(212)	219(123)	109(34+)	

一時間に見得たる流星は甚だ多數のもので、小槇が12日午前2時より2時30分までに一人にて數へたる數は30個(中21個はペルセ流星群)であるが總て5等以上のものであるから微小流星を入るれば100個以上は1時間に見得る事にならう。極大は12日に起りたるならむ。

觀測より得たる輻射點は次の様である。著しい性質は輻射點に二つの中心の有する事で確定的のものは云はれないが結果を表示する。

觀測者	第一中心		第二中心	
	赤經(α)	赤緯(δ)	赤經(α)	赤緯(δ)
稻葉通義	47	+56.5	42	+55
佐藤米茂	45	+57	42	+55
小槇孝二郎	45.5	+56.5	42	+53.5
龜井壽彦	46	+55.5	39	+53.5
田中鐵馬	48	+55	42.5	+52.5

(1928. 9. 23)